

3) 高齢化率および昼夜間人口比との関係の分析

浸水想定区域において高齢化率の高い地域、昼夜間人口比の大きい地域の状況を把握した。概要は以下のとおりである。

- ・郊外に位置する工業団地は、昼間時の従業員の集積により昼夜間人口比が 100%を超過する地区となるが、新潟市の工業団地は、郊後の後背湿地に立地しているものが多く、小新インターチェンジ周辺では、浸水想定深が 2m 以上となっている。(図 2-40 参照)

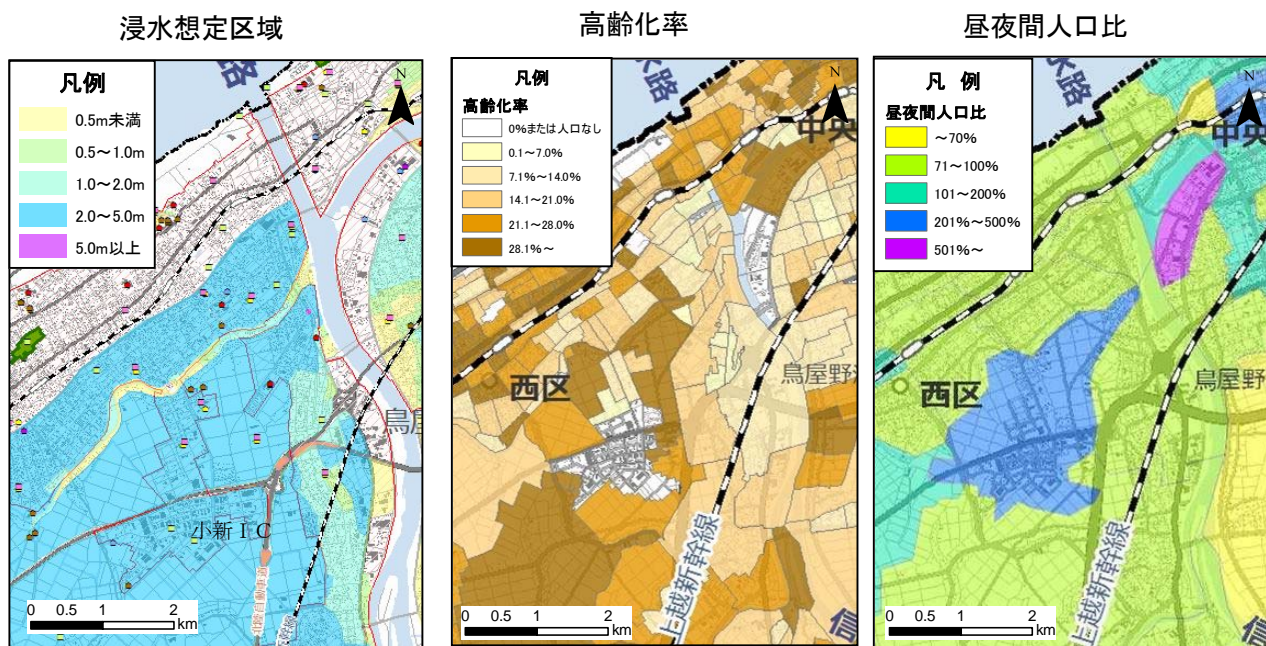


図 2-40 新潟市西区の浸水想定区域分布と高齢化率・昼夜間人口比

(2) 浸水実績区域と土地利用の重ね合わせ

1) 市街化区域および防災拠点との重ね合わせ

浸水実績区域において市街化区域および防災拠点の状況を把握した。

概要は以下のとおりである。

- ・ 浸水想定区域となっていない新潟島（万代島）を含む新潟砂丘上の市街化区域においても、浸水を経験している。（図 2-41 参照）
- ・ 新潟市では、昭和 53 年 6 月水害や昭和 59 年 7 月水害、平成 10 年 8 月水害により、市内の全面積の約 31%（約 225 km²）が浸水被害を受けた。また、市内の全市街化区域面積の約 41%（約 45km²）が浸水実績区域となっている。（図 2-41、表 2-8（P49）参照）
- ・ 浸水実績区域には、市内の全人口の約 42%（約 34.1 万人）が居住している。（図 2-41、表 2-8（P49）参照）
- ・ 新潟市役所および中央区役所、西区役所の 2 区役所、約 36%の警察署・消防署（出張所を含む）、約 35%の病院、約 32%の要援護者施設が浸水実績区域内にある。（図 2-41、表 2-8（P49）参照）
- ・ 新潟市で 371 箇所ある屋内避難所のうち、86 箇所（約 23%）が浸水実績区域内にある。（図 2-41、表 2-8（P49）参照）

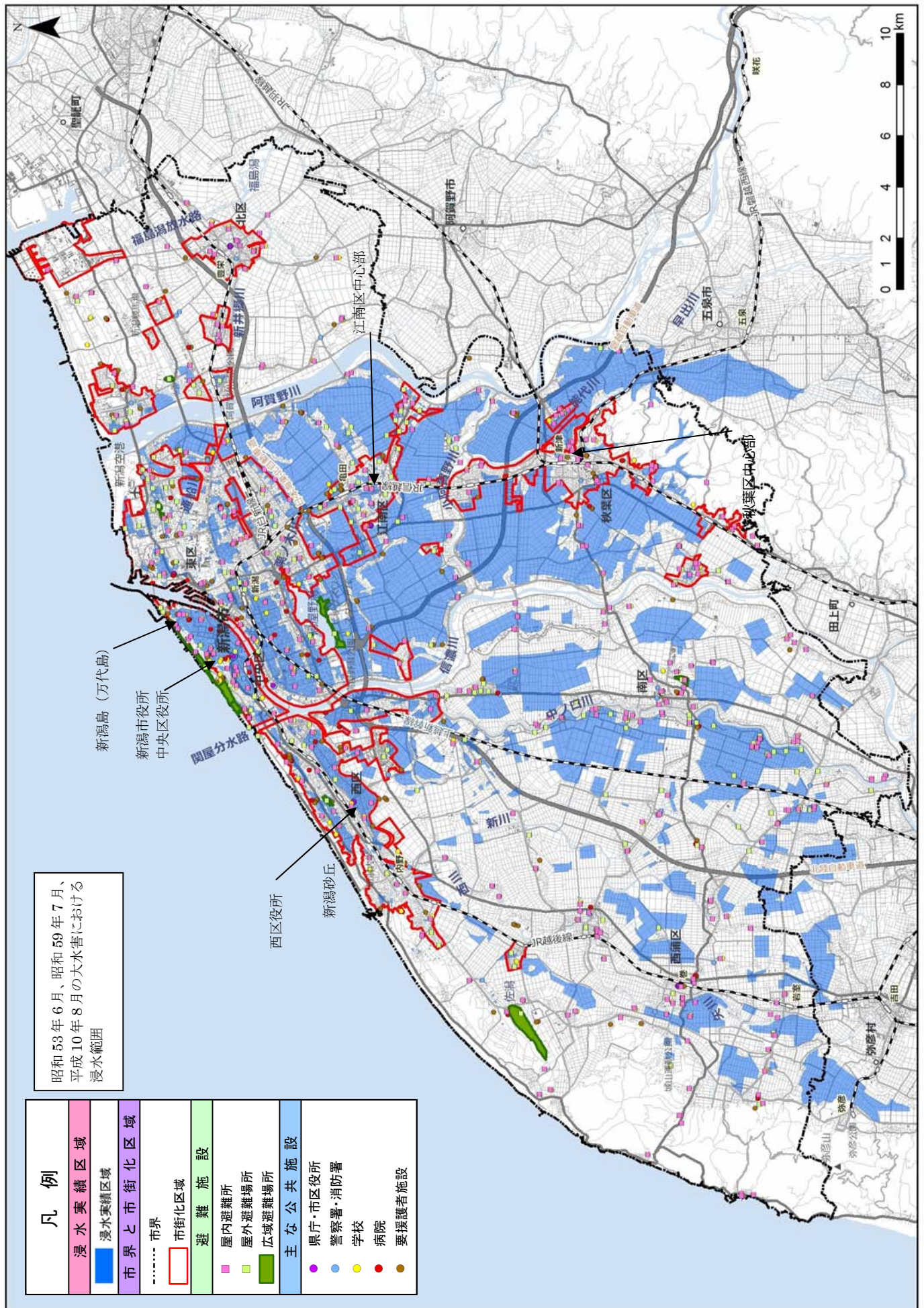


図2-41 浸水実績区域と市街化区域・防災拠点の重ね合わせ図